



《発行所》
 青山同窓会
 〒951-8127 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL 025-266-5268
 FAX 025-266-5268
 《編集、発行人》
 上村光司
 《印刷所》
 オリオン印刷 ㈱
 〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1
 TEL 025-283-2151
 FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 50回 上村光司



れど、良い芽も多く生えていると見たい。新しい年がよい年になるようにと願います。

明けましておめでとうございます。今年はミレニアムとか、消費拡大をねらった仕掛けがにぎやかですが、元気の出る算段なら、キリスト紀元だろうが、イスラム紀元だろうが、年号方式だろが、イワシの頭も信心から。何でもやった方がいいでしょう。

この三年間ほどは、同窓各位にとっても静かない日々だったかと思えます。一九九九年という年は、あとで歴史年表を作るときには、ずいぶん多くの項目が記入されるのではないでしょう。縁の下の力持ちが無視されたり、問題はいろいろあるけ

さて、母校の百十周年記念事業については、昨年七月の総会で事業内容と募金計画のご承認をいただき、各期幹事各位のご尽力で募金の実務に入っています。時節がらまことに恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

別項にありますように、十一月は東京青山同窓会の総会、関西青山同窓会の懇親会が開かれました。東京百二十名、関西六十名という出席者の数は堂々たるもので、どちらにも大学在学の諸君が多く参加し、アトラクションにも趣向をこらされるなど、会長はじめ幹事役の皆さんに敬意を表する次第です。

新年明けましておめでとうございます。西暦二〇〇〇年という記念すべき年が、皆様とご家族にとって、お健やかで幸多い一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

衆議院議員 66回 吉田 六左工門

新年明けましておめでとうございます。西暦二〇〇〇年という記念すべき年が、皆様とご家族にとって、お健やかで幸多い一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

懐かしい「青山」は、卒業してからどんなに歳月が流れても、いつまでも心のふるさとであり、同窓の皆様が、社会の様々な分野で目ざましい活躍をされて

います。これまでの間違った経済対策、独自性を欠く外交等、国民の評価は厳しいものがあります。これらの事を目の当たりにし日本再生会議に身を置く一人として、国家国民を基盤とした政策提案をしながら、間違いない方向に政治を進める努力をします。

青山同窓会の皆様、あけましておめでとうございます。昨年はお陰で丸三年、大過なく国政の場で働かせていただきました。そして、自分なりに広い範囲で手応えを得ることができました。欧州五カ国の

経済情勢調査と、IPU(列国議会同盟)ベルリン会議にも出席し国際的な討論に加わり学ぶことあまたでした。

二〇〇〇年に突入した今、政治・経済・教育をはじめ、どの分野でも歴史的転換を迫られています。



ごあいさつ

新潟市長 61回 長谷川 義明



を内外で支えてこられた、同窓の皆様をはじめ多くの先人たちが市民の皆様、あらためて心から感謝申し上げます。

私も、縁あって郷土新潟の市長に就任してから今年で十年を迎えますが、希望の二十一世紀をいよいよ目前にし、新潟のさらなる飛躍に向け、夢と活力にあふれる市政の展開に今後も全力で取り組んでまいりたいと決意を新たにしております。

懐かしい「青山」は、卒業してからどんなに歳月が流れても、いつまでも心のふるさとであり、同窓の皆様が、社会の様々な分野で目ざましい活躍をされて

います。これまでの間違った経済対策、独自性を欠く外交等、国民の評価は厳しいものがあります。これらの事を目の当たりにし日本再生会議に身を置く一人として、国家国民を基盤とした政策提案をしながら、間違いない方向に政治を進める努力をします。

同窓各位の平安と活躍を祈り、会報にご挨拶を授かり感謝いたします。

東京青山同窓会

74回 池

一九九九年年度の東京青山同窓会総会は、十一月十二日(金)、六月の新人歓迎会と同じホテル・ニューオータニで開かれた。毎回、総会議事だけでなく、アトラクション、懇談会をどう盛り上げるか、事務局長を中心に、学年幹事会は頭を悩ます。今回は、ゲストとして美術の故関口孝吉先生のお嬢さん、ヴァイオリン奏者の関口智子さんをお迎えすることになった。

ヴァイオリンを鑑賞するのに、乾杯の後とはいかがなものかとなり、関口さんには総会議事の後、懇親会の前に演奏をお願いした。そのため、総会議事はできるだけ簡潔に進めようとの事前の申し合わせであったが、栗林会長挨拶をはじめ、来賓の上村青山同窓会会長、青木校長の挨拶まで、すべて予定どおりという見事な連携プレーであった。今回は役員改選があり、新しい副会長に坂井俊一氏(64回)、幹事長に佐藤邦雄氏(75回)、事務局長に日下部朋子氏(82回)が選出された。

関口智子さんの選曲は、老若男女、クラシックファンから演

歌好きまでの不特定な聴衆に配慮されていた。ビゼーのカルメン組曲から「ハバネラ」あり、懐かしい童謡「砂山」や、美空ひばりの「川の流れるように」を交えて、聴く人をあきさせない熱演であった。

懇親会では、「自己・会社PRタイム」も交えてそこに交換風景が見られたが、新人歓迎会に続いて出席する現役学生など、若い会員の参加も目立った。

最後の応援歌「青山」合唱とエールの音頭は、74回卒の菊池隆君がとった。青山同窓会は多士済々である。菊池君のお嬢さんは、二〇〇〇年一月十二日にハワイで西武ライオンズの松井選手と挙式する、タレントの菊池美緒さんである。

総会参加者百二十余人。赤坂見附に流れての二次会も、若い人を中心に盛況であった。

東京青山同窓会の会合に出席



していつかと思うことだが、会の持ついき方が洗練されている。新人歓迎会(含講演会)にしる総会にしる、会場の設営から、個々人の話の長さ、果てはその話の内容にいたるまで、神経が行き届いている。

地元新潟の青山同窓会総会その他と比較しての話なのだが、そのことを口にする、あれだけの規模・人数になったらそれは無理ですよ、と同情されてしまう。もちろん会の進行に関しては、歴代のわが総会実行委員

会等が最も腐心しているところであり、現状で精一杯であることは論を俟たないのだが。それにしては少しうらやましい。今年度の東京青山同窓会総会で新しい企画の報告があった。これまでの年に二回の総会・歓迎会に加えて、定例会を設けるという。その内容は、偶数月第二火曜日午後六時

新橋・新橋(シンキョウ)亭幹事二名が常駐

というもの。上村会長以下、新潟から出席したものはいたく感心した次第。ほめようといふなそうと仲間内のことで、例えば上村会長や青木校長の挨拶も長さとい

内容といい、前記の洗練された会の流れにそのまま組み込まれているわけだが、光っているの

関西青山同窓会

83回 乙川真理

はやはり青山同窓会に寄せる情熱かなと、したり顔で納得したのだった。関心のある方はぜひ、詳細をご確認のうえ、お出かけを。

さる十一月二十二日、例年になく暖かな秋の夜、十八時三十分より第三回関西青山同窓会が開かれました。

最初の佐藤幸治 関西青山同窓会会長(64回)「京都大学法学部教授」のご挨拶では、いまだに「厳しい」とする形容詞の取れぬ社会状況、続いて若者達への「教養」を説いて戴きました。次いで、浮田 侑氏(47回卒)の音頭により、六十名に垂んとする参加者は声を合わせ、会場に響き渡る乾杯の掛け声と

ともに宴は開始されました。郷土の地酒とともに、新潟より駆けつけて来られました上村光司会長(50回)、早福 卓監事(55回)、石田瑞穂幹事長(67回)、三氏により母校の近況、東京及び新潟における同窓会の近況などご紹介いただき、続いては、現役の関西在住大学生七名の自己紹介、参加者の近況報告など、など、盛会のまま宴の時は過ぎて行きました。閉会に近付き、旧制中学時代を過ごされた方々のリードによる旧校歌、返すは現役大学生リードによる「ますらお」。この時ばかりは、本会参加者一同、新潟高校在校生

当時に若返り、遙か新潟の空をどよめかさんと声を張り上げていました。余韻も覚めやらぬ中、中山 沃氏(50回卒)のご挨拶をもって二十時三十分、会は閉じられました。最後は全員壇上に集まり本年の記念の写真撮影

と相成りました。既に固定された感のある、同窓会開催実行部隊たる我等八十三回。松本和彦幹事長は公私混同も省みず、氏の経営する松本登記測量事務所ですべてのお嬢さんお二人に本会の開催準備のほとんどをお願いしていた様子。当日の受付、最後の写真撮影まで、清山さん、浦沢さん本当にありがとうございました。

なお本年は、時節柄会費も安い方がいざらうと、同窓のついで、大阪ガス(株)の保養施設である備後町ホールを会場に開催されました。豊かな青山同窓人脈に感謝致します。さらに現役後輩諸君が活躍し、花園ラグビー場や甲子園球場に出席して来てくれたら関西一同、大歓迎すると、みんなで希望し、楽しみに待っています。(参加者の写真は4ページに)

風間さんが褒賞受章

昨今人権擁護委員事情

66回 小林裕子

昨年の褒賞で、六十五期卒の風間史郎さんが藍綬褒賞を受けた。弁護士としての多忙な仕事のかたわら、二十年を越える人権擁護委員としての活動

に対しておられたもので、同窓生としてはほんのちよっと、同じ委員としては遙かな後輩となりに心からお祝いを申し上げます。この機会に、知名度があ

まり高いとはいえない人権擁護委員について、その活動の一端なりと知っていただければ、幸いです。

市町村長の推薦を受け、法務大臣から委嘱される人権擁護委員は、新潟市内に十八人、県内に約三百八十人、全国では一万四千人あまり。人権思想の普及高揚と人権相談が主な活動とし

て期待されているが、その成果となると、はなはだ心もとないものがある。「法の日」「人権週間」など、折りおり街頭での啓発を行ったり、相談を受けたりするものの、人びとの心に届くメッセージになり得ていないもどかしさが常にある。「人権を大切に」などと呼びかける側の気はずかしさはともかくとしても、そんなお題目を通りすがりに聞かされる人たちの当惑も思わずにはいられない。時代の動きに対応する啓発のありかたを模索する中で、遅まきながら、新しい試みも始まっている。

昨年六月に成立した男女共同参画社会基本法をアピールする意味で、街頭啓発に変えて、「家庭における平等」をテーマに、シンポジウムを開催。人権を自分自身に引きつけて考えてもらうきっかけとして、手ごたえを感じた。

一九九五年からの人権教育のための国連十年を受けて、人権擁護施策推進法が制定され、審議会で人権教育と人権被害者救済について審議が重ねられている。これらの新しい施策を裏切るものにするために、自治体の人権擁護機関や民間の団体を結ぶネットワークが精緻に張りめぐらされ、社会のあらゆる面で常に人権意識が発動されるこ

とが必要になってくる。人権と権の世紀といわれる二十一世紀の到来を目前にして、この人権後進国で果たすべき役割もそれなりにあることを思い、事あるごとに試されるわが身の人権感覚をあらためて問い直しているところである。

新校舎改築に思い在り

55回 早福 卓

はおのずから限界があるが、人権の世紀といわれる二十一世紀の到来を目前にして、この人権後進国で果たすべき役割もそれなりにあることを思い、事あるごとに試されるわが身の人権感覚をあらためて問い直しているところである。

昭和二十九年(54)四月四日

未明、母校の木造校舎が焼失しました。廊下や天井裏が煙突の役目を果たして火の廻りは物凄く早かった。駆けつけた先生や生徒・同窓生が沈着冷静に自転車からハズした電池式ライトの灯りに助けられて、大きな風呂敷等に教材等を包む作業をしていました。その教務室の上の、私達の頃の3年生の教室の屋根瓦からは黒い煙が吹き出していたのです。古町六番町の萬松堂の二階に「青山クラブ」があった、英語教師の志賀先生のお母さんと岩田はす枝さんがいて、昼間はコーヒートかカレー・ライス位を提供し夜はコンパにも応じていました。この場所に卒業年次別に代表幹事が召集され「母校復興基金」の募金活動が

開始されました。当時の北村知事は赤字退治を公約して当選した人ですから、焼け跡に建てたプレハブの仮校舎しかも二部授業と云う世知辛さ。県下最高の大学進学学校なので在校生以上に母親が決りしめた。寄居町の知事公舎に知事は勿論知事夫人にも陳情した効果もあって長期間の年次計画で校舎の改築は進められました。最後の体育館の改築も学校側と県教委との攻防も二階建てか三階建てかで揉めたけれど、県は既に国体の会場に当てこんでいたので二階建てで押し切りました。結局竣工は昭和三十七年の創立七十周年の会場には間に合わず式典は翌三十八年になりました。平成五年(93)十月十七日、母校は創立百周年の記念式

典と祝賀会を盛大に挙行しました。その翌年の平成五年九月十八日の新潟日報に「新潟高校に移転話」の大見出しで同窓生三万人にとって大変ショックな問題が投げかけられました。現在地は長岡と県立中学校の誘致合戦に勝つ為に新潟市側が齋藤金衛さんに頼んで交換分合で確保した七千坪の校地から歴史が始まった由緒ある地籍です。昭和五年に新潟市政最初の土地区画整理事業として関屋浜の砂丘の跡地と併せて一大住宅用地づくりをした時に、県が二千坪拡張したのです。私共の生徒の頃、シャモ教官が「目標、前方のポピラー」と叫んだのと同じに、目標や集合場所にも使われた「五本松」から松波町側がそれです。この土地は念仏寺と私の本家の土地で昭和六十年頃県財政が豊かになったとき買い上げて呉れました。校地は全部で一萬二千坪。移転候補地の鳥屋野潟南西部の県有地は三万坪だと云う。サッカーやラグビーそして野球、陸上等のクラブ活動は広いグラウンドを必要としますので、

その為の理解はしますが移転先の候補地が、当時から計画された「いわき・新潟線」に近いとしても通学の便は新潟交通が主軸になるのです。日報が報道して呉れたのがキツカケで同窓の各位から色々意見が出て参りました。公平に判断しても「現地再建」派の声が多いと思えました。最大の理由は、「青陵健児」の呼称の根拠になった「現在地」を他の場所に移す事を認めないと云う事に盡きると思えました。私は平野教育長に電話をしてみました。役人の優等生答弁でした。運良く平山知事と同席する機会がありましたので、「青山の同窓生三万人の大多数は現地再建支持ですよ。間違った判断はしなさんな。前の方へ引張って五階建てにすればグラウンドも広がるし。」と告げました。平山知事は「べん、現地を視察

してみよう」と約束した後日現地視察をして呉れました。78回的小林敬直副幹事長と同期の五十嵐祐司君らは平山知事とは日銀支店長時代からの古い友人でもあり、こちら辺からの話しも効果があったと思います。創立百周年記念事業の一大イベントに相乗効果を発揚して呉れる「母校現地再建」は平山知事の英断に依るものと私は想っています。今年度の入学生は四百一名で女子生徒が一名多くなって男子生徒が過半数を始めて割ったそうです。その故でもないかも知れませんが母校のクラブ活動面ではレスリング部は部員がゼロ。柔道部も新入生は七名位だそう。こうした傾向は母校のみならず県内の高校全体の流れだと云われています。格闘技は段々と嫌われるスポーツになっています。

手狭な現在地 反発必至? 県は慎重

新新潟高校に移転話

OBが改築陳情

学校教育 80

日 報 5 9 18



新新潟高校に移転話

OBが改築陳情

学校教育 80

日 報 5 9 18

母校訪問



防衛大学校材料物性工学科教授

62回 中村義一

平成十一年十月九日。第62回

卒業生の卒業後四十五年を記念する会合に出席するため朝早く横須賀を発つて新潟に向かった。「あさひ」が上越の最後のトンネルを駆け抜け、越後平野を一望に見渡せる風景になるといつ

も帰ってきたと感ずる。その日の午後会合に先だって母校を訪問する計画を同期の田村誠一君に立てて頂き、卒業後始めて母校を訪れた。勿論そこには昭和二十九年に消失した木造校舎はあろうはずもなく、RC構造の立派な校舎がわれわれを迎えてくれた。同窓の先生に限らず校舎を案内して下さるにつけ、あの当時の壁から隣の教室が窺えたことなどが思い出され懐かしく思われた。今年度は女子学生数が男子より一名多く入学したとのことで、時代の移り変わりを感ずった次第である。夕刻からの懇親会は恩師を多数お招きして、ここでは貴重な元女子学生の方々も交え、互いに童心

に返って賑やかなうちに終了し、引き続きの二次会も場所を変え和気藹々のうちに終えホテルに戻った。

翌日有志によるゴルフコンペでは三、四次会をもちなしたつわものが力強いショットを飛ばし、青山健児の健在ぶりを発揮しておおいに若さをアピールしていた。

若さと言えば、今年度は新潟高校からの一名を含め、新潟県から新入生が七名(内県内からの最初の女子学生二名を含む)本校に入学し、現在も元氣一杯に勉強・スポーツに励んでいる。ここでも女子学生の存在は珍しくなく、あらゆる部門で優秀である。最近、自衛隊の活動が国内に限らずPKOや物資の国外への輸送など多岐に亘ってきたこともあり、入試時の倍率は高い。しかし、この倍率は入学の難関度には必ずしもならない。なぜなら入試が十二月までに二次試験が終了するため、受験生にとつてはもつてこいの腕試しの機会を提供していることが倍率を跳ね上げている一因となっ

ているからである。

「昨日、大学で入学時の基礎学力の低下が問題視されているが、われわれのところも例外ではない。大学の「基礎教養」に関する講義は、学生の知識量を増大する機会を与えているわけであるが、学生の学習意欲の低下は、その機会を学生が自ら放棄していると言わざるを得ない。「与えられる教育」に慣らされた結果とすると導入教育も視野に入れた基礎教養に関する科目を抜本的に大学において再構築すべき時期が到来している。「眼」に輝きを持った若者で教場が溢れるような環境を早く構築したいと本当に「日本沈没」が起きかねないと自問することしばしばである。



関西青山同窓会

2ページに本文の

関西青山会の出席者

なつかしのあの店シリーズ

店名を聞いただけで青春のあの日にプレイバック...そんなお店を紹介するコーナーです。会報編集部まで情報をお寄せください。

●この力オになったら一人前●

セキダン 関屋団子松川屋

新潟市関屋下川原1-4
電話 025-266-3561



ちを連れていく側になって「ああ、俺もいっぱしの猛者になったものだ」と感慨深かったね。

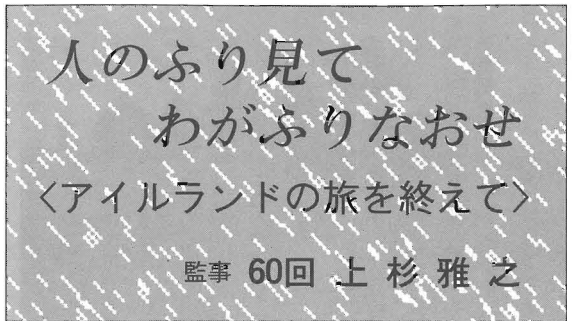
【紹介者】
横山隆二さん(46期・剣道部OB)
樋口信治さん(〃・剣道部OB)
藤巻 貫さん(〃・ボート部OB)

母校から学校町通りを市役所方向に向かうと関屋小学校の斜め向かいに、大きな看板を掲げ広い間口の割にはひっそりとした佇まいのお店がある。

昭和十三年(十四年頃、学校帰りの学生たちの空腹を満たしてくれるのは、この「関屋団子松川屋(略してセキダン)」とその背中合わせにある支那そばの「やなぎ屋」しかなかった時代。

「当時は何を食べても10銭以内。運動部の厳しい練習の後はすぐにも寄りたいたけれど、下級生のうちは先輩たちが恐くて近付けなかった。下級生同士で行くものなら、慨嘆演説で上級生からこつり絞られるからね。三年生になる頃に力才役の先輩に連れていってもらって、やっと出入りが許される。そのうち自分たちが上級になると、今度は先輩た

はもうかなり前になくなつたとのこと。草もちと大福をいくつか買つと、お嫁さんらしき女性が出てきて丁寧に包んでくれた。当時を覚えていた人はと聞くと「その頃のお客様はめつたにいらつしやいませんし、家のおばあちゃんももう年だから」という返事。お団子はだいたい1個80円、消費税なし。美味しかった。私自身が体験していないはずの切ない味がしたようだった。(S)



はじめに

極東の国日本から極西の国アイルランドとアイルランド西海岸ゴールウェイ湾に浮かぶアラ諸島への旅に行ってきた。時差九時間、搭乗時間約十三時間の空の旅、なにしろ遠い旅である。比較的近い外国なら七十歳すぎでも行けようが、はるか遠い国に行くのは七十歳前だ。第二にアラン島(イニシュモア島)を訪ねる一日が旅程に組まれていた。アラン島の名は大学時代に読んだ戯曲「海へ駆り行く者たち」や「西の国の人気者」を書いたジョン・ミントン・シングの名と共に常に頭の片隅に残っていた。第三に高校・大学と同期の旧樺太からの帰国者池哲君60回の誘いが大きな動

機となった。今回のはるか西への旅に私を連れ出したのはこの三つの偶然によるものだった。結論から先に述べよう。私は大のアイルランド好きになったのである。理由は次のようなこととなる。

古いケルト文化と伝統を持つこの島国は現在西欧圏の中でもかなり貧しい国の一つと思われるが、決して物質文明のみを求めてあがくことなく、自然との共生を大切にし、若者に良い伝統と民族性をじっくり教え込みながら、二十一世紀統合ヨーロッパの新たな胎動に向かって地道な足取りを進めるヨーロッパの稀有な国だとの印象をはっきり得たのだった。いつか調べてみたいと思っているが、この国には若者が多い。大学の数は多くないから専門学校生や有職青年が多いということだろうが、この若者達は私が訪ねた四大都市すべてについて言えるが元氣潑刺としていた。朝夕の通勤通学時など身軽な服装で舗道を勢よく闊歩して行く。風が強く俄雨も多い土地柄だが、傘などささず、ルイビトンだゲッチだフェラガモだなど身につけている者はいない。どこかの国の若者の一部のように不満そうな顔付き、冷たい表情はない。それぞれが自分を待ち受けてくれている何物

かに目をしつかり向けて歩いていくようだ。アイルランドの旅は人との出会いだと言いきれる程人情味豊かなのがアイルランド人である。イギリス人特有の「俗物根性」をさらりと捨てた掛け値なしの素朴さ、優しさ、人懐っこさに心が和んだ。大学の職員、教会の案内のおばちゃん、バスの運転手、スーパのお客、食堂のおばあちゃん、タクシーの運転手、フェリー・ボートの船員、パブ(居酒屋)の客などなど、皆さんから英語や時にはアイルランド語(ゲイリック)でたまに日本語でも話しかけられたりした。

地理など

アイルランドは北海道よりやや大きい面積を持つが、人口は僅か約三五〇万人でしかない。ただし世界各地に住んでいるアイルランド系の人口は約七千万を越えるとのこと。緯度的には旧北樺太とほぼ同じだとのことだが、大西洋にあるメキシコ湾流のせいで夏は平均14〜18℃、冬は4〜6℃と比較的温暖だといふ。今回十一月第一週滞在中海岸地域に観光に出かけた時を除いて特に寒いと感ずることは殆んどなかった。越後の十一月にもよくある一日のうちに陽ざしあり、にわか雨あり、突風あ

りの曇天模様が大半だったが、空気が凜々たる冷気を含み湿度が低いのは緯度のせいなのであろうか、心地よかった。

今回はアイルランドの中部から南部にかけての四大都市、ダブリン、ゴールウェイ、リムリックを中心にそれぞれ別の観光拠点地域を見ただけで、アイルランド北部地方や、世界のニュースとなる例の北アイルランドまでは行っていない。いづれにしても、美しい「エメラルド・グリーン」のこの島は、祖先のケルト民族が波で打ちあげられた海草を浜から石灰岩に覆われる大地にひっぱりあげ肥料とし、風化によつてできたわずかな土地をすこしずつ広げて草地を作りあげた産物であるといふ。地味が酸性でやせていて耕作に適さないため、島民は牧畜を中心とする農業を営んできた。人口の3倍はいるといわれる羊が朝から夕方まで黙々と草を食む姿(時には疲れたためなのか前脚を二本折ってしゃがみ込むようにしてそれでも食べることをやめない)が晩秋のアイランド路を走るバスの車窓から見えなくなることはなかった。

歴史など

古来、この国は大陸やイングランドから波状的に侵入してきたケルト人が移住、後にヴァイキングが来襲、最終的には隣のイギリスに、八百年にわたって支配されてきた歴史の経緯がある。また一八四五年から五年間続いた大飢饉に際してのイギリス政府の対策のまずさはアイルランド人の心の中に深刻で永続的な反英感情を残したという。アイルランド第四の都市リムリックの、とあるパブで若者三人とギネスビールを飲みながら談笑した。一人はインテリアの仕事に従事している青年、その友人でシェフ修行中の好青年、もう一人はインテリア君の恋人で共に二十三才。この恋人二人は十二月からシンガポール、タイに数ヶ月滞在後、一年半の予定でアルゼンチンに出稼ぎに行くといふ。シェフ君はすでにフランスで見習いを終え今後は中国、日本、アメリカへの修業の旅に出たいという。三人の一人が「アイルランド人は日本人を尊敬している」と言う。何故という問いに彼は次のように答えた。

「第二次世界大戦で日本はイギリスやアメリカやフランスなどを敵に戦った、特にイギリスを敵として戦い不幸にして敗れたが、その後日本は立派に立ち直り、アメリカに次ぐ第二の経済大国になっている」というのである。「日本人はアメリカ的物

質至上主義に毒され、若者のなかには氣力や努力を捨て去ったような生活をしている者が多い。君たちのように伝統と歴史を大切に受け継ぎ、かつての専制国イギリスを見返えそうとする氣力と情熱に感動する。若し仮に日本人が君達の島アイルランドに移住して来るとしたら大型機械を多用して牧草地に高速道を縦横に走らせ、大型の畜舎を建て羊を収容し、栄養価の高い化学飼料を食わせて羊毛を多量に生産するようにし、この美しい島を破壊するだろう」と冗談まじりに言ったら、三人共「自分たちはアイルランドに誇りを持ち、祖先の残してくれたこの草原を大切にし、日本を目標にすこしずつでよいからリッチになつてみせる」と力強く語り、シェフ君などは「自分の国を誇りに思います」という日本語を教えてくれとせがむのだった。耳がよくないとシェフは客の注文どおりの料理ができないとフランスで叩き込まれたというシェフ君だけあり、「I am proud of my own country.」を日本語でしつかりマスターしたのには驚いた。面従腹背という言葉があるが、飛行機で約一時間しか離れていないこの近い国イギリスとアイルランド同志の間には古くからの確執があったのだ。



クロンマクノイズ
 アイルランドほぼ中央部シャノン川沿岸に残る有名な初期キリスト教の遺跡、約六世紀の半ば、日本では大和国家時代十二使徒の一人聖キアランがこの地に教会を建てた。タラの丘同様アイルランドの中で神聖な場所とされていた。一五二二年イギリス軍によって占領された。ケルトの十字架が実に美しい。

写真でみるアイルランド寸描

特にアイルランド人はその屈辱の歴史を若者に正確に教え二十世紀に向けて自立すると同時に統合ヨーロッパの一員として愛国の情熱を持ち続けるよう励ましている。『西の国の誇り高き人々』に脱帽する。

【参考文献】

「物語アイルランドの歴史」

波多野裕造 (中公新書)

「地球の歩き方81」

アイルランド

(ダイヤモンド社)

巨人のテーブル

紀元前二五〇〇〜二〇〇〇年バレン高原に定着した人々の住居跡の代表的な遺跡の一つ。ドルメンという墓石の残ったもので考えられるが、私有地なので近くでのカメラ撮影は固く禁止されている。このような絵葉書でしか細かく観察できない。カメラ好きの日本人の中に禁を破り近くまで行き撮影する者がいるらしい、日本人の悪い性根である。



▲アイルランドの主役たちは「エメラルド・グリーン」の上で日がな一日草を食む。羊に遠慮してゴルフ場はあまりひろげない。

アランセーター



▲羊毛の油をあまりしぼっていないセータはやや重く外出用。雨をよくはじくという。

編み方は、びっしり組まれたものがよい。



▶バブのカウンター風景、夜十時から一時間、舟型の舞台上で三人組のギターリストたちがアイルッシュユカントリーソングを熱唱する。アフターナインだがどのバブも満員の盛況で、深夜まで談笑がたえない。ツマミや食事は殆んど出ない。

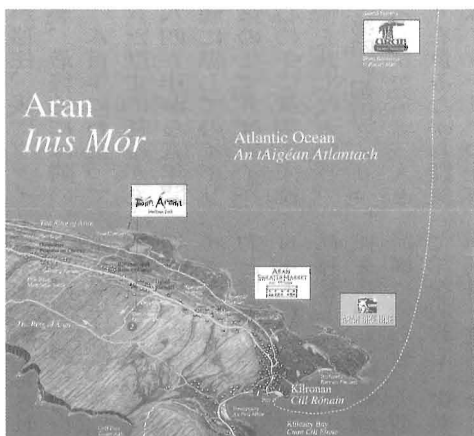
◀アイルランド土産のアラン・セータを着、アイルランド人に嫌われるイギリス人のマスコットと言われるテディベアを抱きすくめてご満悦の筆者の娘。



▲左の新婚カップルが乗って来た幸せを祈る黄色のテープを巻いた車。車はニッサン、トヨタ、マツダ、フォードが多い。



◀アイルランド南西部キラニー国立公園内にあるロス城の門前での新婚カップル。寒空の中日本人カメラに対するサービスは優しかった。この城は十三世紀に建てられたが、イギリスのクロムウェルに攻撃された。



▲これはアラン島の地図だが、上段に英語で「大西洋」下段はゲリック（アイルランド語）で書かれているカタカナ英語の多い日本も反省をするべきでは。

54・55同期 東北大学名誉教授
吉原賢二君著(真菜書房刊)

「夏戸城のロマン」
現代へのメッセージ」推薦文

今 湊 良 敬

夏戸城の歴史についてはまっ
たく知らなかったが、一九九八
年の吉原賢二君の「青山同窓会
会報」に書いた『夏戸城扇おけ
さ』を拝見し、地元にすっかり
と根づいていることに感銘を受
けた。

吉原君は今や国際的にも知名
の化学者・化学史家であるそう
だが、同君が今回は専門を外れ
た夏戸城志駄氏ゆかりの人々の
歴史を書くというので驚いた。

「歴史を現代に生かす」という
のが同君のモチーフだが、それ
は歴史というよりは一種の人間
関係者のご一読を望む。

（東京千代田区神田駿河台二一
一、OCCビル五階）。同窓会
関係者のご一読を望む。

青山三九会

幹事 池田藤三

歳とともに同級生の数が減少
してゆくが、例会の密度は益々
濃くなってゆくようです。

特に、今年、新校舎竣工と
創立百十周年記念事業が予定さ
れており、更に我々としては八
十六、七歳を迎えて廿一世紀の
歴史の世界に新しく踏み越える
ことを思うと感慨一入の思いで

催日、会場や出欠連絡の回答を
求めるとともに、募金趣旨の徹
底を図りました。

十月十五日の総会は、十二時
に集合してかねてお願いしてお
いた新校舎見学バスを走らせ
ました。

堂々たる四階建(一部五階)
のモダンな校内を案内して頂き、
杖をひきながら、またエレベ
ーターを利用して各教室や立派な
視聴覚教室を拝見、丁度秋の文
化祭の準備とかで、大わらわの
部屋もあり、男女共学とて雰
気も和やかで廊下で軽く目礼す
る生徒も居て我々の蚤から時代
と様変わりした息吹に大いに好
感を持ちました。

十三時半から会場鳥屋野瀨の
「湖畔」で総会となりましたが、
出席予定者の体調不具合で欠席
が多く九名の出席で開催しまし
た。

まず、本年の物故者猪初男君
(元新大学長)、村田篤君に静
かにご冥福の黙禱を捧げ、次い
で宮村定男君の「細菌と微生物」
の小話を拝聴した後、各人の近
状報告があり、白髪の山下八郎
君の未だ所用は単車を馳駆して
活動しておられるとか、宮村定
男君は例年の水泳大会では高齢
者の部で何回も優勝しておられ
る(誰か、一人しか出場しなかつ
たのではないか、の声あり)等、

まことに羨ましい限りでした。
本番の事業報告、会計報告があ
り特に今回の募金については、
二十九名と予想を越えた応募が
あり、感謝するとともに七十余
年前の赤線の新中時代に対する
慕情の浅からざるものがあるの
かと感慨一入のものがありまし
た。

お膳を囲み懇親会に移って、
皆さん酒量が減っているのに大
いに話は弾み「玲瓏の天」の旧
制校歌に相和したりで何か大正
ロマンにかえったような若やい
だ楽しい数時を持ちました。

同級生に会う毎に会津八一先
生の
ふるさとの
はまのしろすなわかきひを
ともにふみくむ
ともをしぞおもう

の歌趣に深く打たれるのは小
生だけではないと思いました。
写真「前列右、涌井十一郎、
宮村定男、鷺沢五郎、池田藤三。
後列右、山下八郎、大塚信一、
野沢正一、佐藤裕雄、五十嵐健
治」の諸君です。



前代表幹事 故大橋明自君を偲び
11年度48期会例会の開催

48期会 代表幹事 五十嵐 皓太

平成十年十一月二十八日、新
中48期会代表幹事大橋明自君は
入院先の新大付属病院に於て逝
去されました。あれから丁度一
年が過ぎました。

あらためて我々同期生一同心
からご冥福をお祈りしたいと存
じます。

48期会は大橋君に殊のほかお
世話になりました。48期会の例

ところであり、感謝のほかはあ
りません。彼にはもともと元々
元気で長生きして貰って、48期
会のために力を貸してほしかつ
たと残念でなりません。

大橋君の葬儀は平成十年十一
月三十日にお通夜、十二月一日
に告別式が夫々新潟市青山会堂
に於て執り行われ、両会場とも
広い式場一杯の多数の参列者が
あり、キリスト教式で讃美歌が
流れる中、厳かに誠に盛大であ
りました。

彼が長年経営された老舗の(株)
大橋洋食器の取引先の広さと、
彼個人の交友関係の多数の顔振
れを拝見して、彼の人の徳の大き
さが偲ばれました。当48期会と
して弔電、香典、生花をお供え
し、幹事ほか大勢の同期生が参
列して弔意を表しました。弔辞
は彼の奥様から依頼されて、通
夜の席では私が、又告別式には
南緑八郎君が夫々代表して奉呈
しました。私はその弔辞の中で、

「せめて我々他の幹事がもう少し
少
し会の仕事を手伝ってやればよ
かった。彼の好意に甘えずぎて
いたことは誠に申し訳なかった」
と陳謝し、「今後は残った幹事
一同及ばず乍ら君の遺志を継い
で、協力して会の運営につとめ、
これまでどおり楽しい48期会
の例会を継続して行こう」こと
を約束しました。

「せめて我々他の幹事がもう少し
少
し会の仕事を手伝ってやればよ
かった。彼の好意に甘えずぎて
いたことは誠に申し訳なかった」
と陳謝し、「今後は残った幹事
一同及ばず乍ら君の遺志を継い
で、協力して会の運営につとめ、
これまでどおり楽しい48期会
の例会を継続して行こう」こと
を約束しました。

そして平成十一年度の48期例会は、去る十月七日、新潟駅南のワシントンホテルに於て開催しました。代表幹事の大橋君が亡くなって初の例会です。大橋君を偲ぶ例会にしたいと幹事一同一人でも多く参加を呼びかけたところ、二十六名の出席を得て前年より遙かに盛り上がりた例会となりました。先ず戸川喜代一君の司会で進行し、南緑八郎君の開会挨拶で始まり、新幹事の確認及び後任の代表幹事選任を諮り、全員の拍手で不肖私五十嵐が選ばれ止むなくお引受けすることになりました。続いて経過報告として私から大橋君の病状の経過並びに葬儀の様について報告し、更に母校の現状と創立百十周年記念事業の募金について概況を説明し、後日正式に募金の趣意書が届いたら、応分の寄付をしてほしい旨協力方お願いしました。そのあと全員で大橋君を始めこれまでの物故者に対し黙禱を捧げました。次に大谷一男君から会計報告が行われたあと、戸川、林両君のカメラで全員の記念写真を撮りましたが、大橋君の姿が無いのがとても寂しい思いでした。続いて待望の懇親会に移り、先ず遠路東京から駆けつけてくれた小林亥一君の乾杯の発声で賑々しく宴は始まり、久し振りの再

会に盃を重ねるうちに次第に談笑の聲が高まり、大橋君を偲ぶ乍らお互い旧交を温め合いました。宴たけなわになった頃合を見て、諏訪宏君の音頭で大声で青山の応援歌が始まり、最後に昔の懐かしい校歌(レローの天を合唱しました。引き続き林俊太郎君の発声で万才三唱、最後に戸川君が閉会の挨拶を行い、来年又元気で会おうと手を握り合い解散しました。恐らく大橋君も今年の例会の盛会を喜んでくれたと思います。近年は毎年必ず死亡者が出たり、身体不調の会員が増えて残念なことではありますが、これからも引き続き一年一回の例会は何としても開催すべく努力したいと思っております。

勤労働員を偲び 旧交を温める

旧制新潟中学の同年会が昨年の十一月八日と九日。名古屋で行われ参加して来た。今から約五十五年前、太平洋戦争の末期、昭和十九年の八月上旬から海軍航空機の組立作業と整備の仕事に強制的に勤労働員の命令を受けて、空襲と地震の中を生死を共に生活した学友

(追記) 去る十一月末、母校の創立百十周年募金の件で初めて新校舎の内部を参観し、青山同窓会事務局の三浦さんを訪ねた際、平成三年に48期会の卒業五〇周年の記念として「はなみずき」を植樹したが、新校舎建築工事のためどうなっているだろうか、と尋ねたところ「移植してあるからご案内しましょう」と言って新校舎の中庭へ、案内してくれました。そこには八年前に大橋君と我々が一緒に行って寄贈した「はなみずき」が立派に移植されていて、傍には「48期会卒業記念」と書かれた白い標柱が立っていました。私は本当に嬉しく懐かしく、しげしげと眺めておりました。学校のご配慮に深く感謝いたします。



どうか大事に育ててやって下さい。お願いします。(平成十一年十二月十三日記)

に従事したのである。戦後の日本の復興に貢献し経済成長の先兵として共に人生を歩んだ五十年の労苦のため、全員の頭髪は白く顔には深いしわが刻まれ、古稀を迎える年齢なのに、互いに酒を酌み交わし、談笑する間に、いつのまにか昔の純真な少年時代にもどり、東南海大地震の被害体験。空腹を満たすために並んだ築地口の雑炊食堂。宝神寮や昭和寮で風(しらみ)に悩まされた生活。B29の昼間空襲による爆弾の雨の中で死体運び。十一号地(陸上機の飛行場)での機体整備。稲永工場での水上爆撃機「瑞雲」・「晴嵐」と艦上攻撃機「彗星」・「流星」の組立作業のことなど、昔の思い出話に花が咲き楽しい宴会であった。

翌朝は貸切バスに便乗して、昔の跡地を視察に出発。愛知航空は愛知機械に変身して日産の自動車を製造。十一号地の飛行場は新日鉄空見工場が建設され、名古屋港はカーフェリーの発着と伊勢湾岸道路の高架橋が完成し、輸出車の積出港などが増設され、昔の跡地はすっかり変わっていて、僅かに面影が残っているのは、河幅の広い庄内川の堤防に残るプロット機用のスリッポの残骸であった。

それを背景に全員が記念撮影をしてお互いの長寿を祈りながら別れを惜しみ帰途に着いた。

(追記) 小生にとって終戦後は戦争でのいやな体験はなるべく忘れようとしていつのまにか54年が経過してしまつた。今回、同年会に参加し、五十四年ぶりに再会した学友と懐かしい昔話に花が咲き、さらに、現在、愛知機械工業に勤務され、戦時中の愛知航空機製の流星艦攻などの修復支援カンパに精力的に取り組んでおられる愛航会の渡辺哲臣氏の

スライドを使用しての「愛知航空機(今昔物語)」の講話や説明を拜聴したり、二葉町在住の学友長道雄君のA4判三十三ページにまとめられた「名古屋勤員―ある中学生の体験―」のタイトルでの詳細な記録を中心とした日記を全員に印刷配付された資料を読み、小生の心境に変化が生じ、光人社発行の軍用機・メカシリーズの写真入りの図解説明付きの本を何冊も購入したり、長岡市のプラモデル店に行き、フジミやタミヤが販売している実物に対する1/72スケールのモデル旧日本海軍機「瑞雲」・「彗星」・「晴嵐」・「流星」など旧愛知航空機で製作のプラモデルを購入して小学生の男子の孫達と一緒に童心に帰って製作に情熱を燃やして楽しんでいく毎日です。



フロント機用スリッポの前にて (津野 務氏撮影)

54・55期「古稀を祝う会」 湯沢温泉で東京・新潟合同開催

世話人 今 湊 良 敬



世話人 今 湊 良 敬
の調査で五月末現在で六十五名の同期友人が亡くなった旨報告があったので、この貴重な機会に慰霊供養をして在りし日の姿を偲ぼうと計画した。

まことに幸いにも塩沢の名刹「雲洞庵」の現住職新井勝龍師も同期であることから、超多忙の中お願いして「雲洞庵」で供養していただけることとなった。

そこで「古稀を祝う会」第一部は新緑薫る雲洞庵で午後一時半より六十五名の亡友たちの慰霊祭から始まった。しかし新幹線で越後湯沢駅下車、上越線に乗り換えて塩沢駅、そこからタクシード約十分の少々不便な禅寺へ何人集ってくださるか心配していたところだったが、さすがは「青陵健児」。何と二十三名の懐かしい顔が揃っているではないか。世話人としては、これでまず大成功とホッとしたことだった。もっとも一人二人名前と顔が一致しない友人もあったが、こんなこともあるうかと

かねてより平成十一年は同期一同めでたく(?)古稀を迎えることとなるので、還暦祝会以来久しぶりに一緒にやろうと同期東京世話人阿尻威吾君中村幹男君より度々連絡をいただいていた。勿論新潟同期一同も大賛成ということで計画は一任された。しかし乍ら場所は東京・新潟両方から便利などころ、そして時期は年金受給の都合もあるので六月中旬以降という注文がついた。

そこで六月二十四日(木)越後湯沢温泉ホテル双葉で午後四時半より開催となった。同期生の動向の生き字引である保倉修君

新井師より物故友人六十五名の氏名を読み上げていただいた。御丁重な供養をいただいた。読経中参列者各自仏前で焼香をして友人を偲び、読経後新井師の心のこもった説法を聴聞した。午後三時半ホテル双葉よりの迎へのバスで二部会場湯沢温泉へと向かった。

第二部はホテル双葉、先着組はすでに浴衣に着替えて待っていてくれた。東京十一名新潟十六名勢揃いした。一同素晴らしき眺望の広い温泉でゆっくりと汗を流し、浴衣に名標をつけて大宴会場で着席、先づこの度の世話人今湊よりあいさつ旁々経過と準備説明ののち、この度勲四等に叙勲された同期山田源行君、片桐敬弼君、大橋定雄君を紹介。次に平成十四年は母校創立百周年にあたり、第二期の校舎改修工事も十三年秋に完成する予定であり、同窓会として支援をすることとなり、近日中に募金報告書が配付される予定なので格別の御協力を、とお願

いした。そこで乾盃となり、音頭は叙勲でおめでたい山田源行君に願った。各自現況報告ののち、湯沢美人も同席して銚子に盃、ビールにグラスが乱舞しての盛り上がりとなった。

最後は、恒例で保倉修君の発

声で「玲瓏の天」と応援歌「丈夫」でしめた。
二次会は幹事宅。新潟より持参の「越の寒梅」「雪中梅」が空になる夜半まで果てしなく談論が続いた。翌朝は朝食後名残り尽きませんが東京へ新潟へと再会を期して無事閉会した。



一九九九年十月二日五九期ゴルフ同好会の第一回全国大会が紫雲ゴルフ倶楽部で開催されました。

五九期ゴルフ同好会 全国大会開催



前立腺が少々肥大気味で、かつての木造校舎の頃のアノ美しい放物線や飛距離は望めませんが、ゴルフの飛距離は衰えませんか?アプローチのテクニクはますます牙える、壮年シニア十一名が全国から集り、秋景色も美しいコースで腕を競いました。
まさに玲瓏の天を仰ぎ、中原に牡鹿争そうの感がありました。が、成績の方は、公表しない方が奥ゆかしいとの声が大勢を占めました。

懇親会では、健康のための老人ゴルフは早すぎる、まだまだチャレンジゴルフを心がけ、ハッパを上げるべきだ!! ゴルフは腕力でない、など元気の良い議論が飛びかい、次回のレベルアップを約束して解散致しました。

優勝は飯塚 実氏(新潟)、準優勝は遠藤鉄蔵氏(東京)でした。

ちなみにこの二人を除く今回の参加者は左記の各位でした。(略敬称)

- 江口 昌男(新潟)
- 佐藤 進(新潟)
- 品田 茂博(新潟)
- 椎谷治一郎(新潟)

青山同窓会収支決算書・収支予算書

収入の部 (自平成10年4月1日) (自平成11年4月1日) (自平成12年4月1日)
(至平成11年3月31日) (至平成12年3月31日)

科目	平成10年度決算額	平成11年度予算額
繰越金	2,920,125 円	3,751,000 円
入会金	1,177,000	1,020,000
会費	7,254,000	6,000,000
雑収入	2,519	2,000
合計	11,353,644	10,773,000

支出の部

科目	平成10年度決算額	平成11年度予算額
人件費	1,381,220 円	1,250,000 円
通信費	1,619,285	2,000,000
印刷費	394,274	600,000
慶弔費	131,460	150,000
会報印刷費	833,805	1,000,000
会議費	1,014,794	1,300,000
卒業生記念品代	232,050	300,000
補助費	1,060,000	1,100,000
退職積立金	100,000	100,000
諸費	122,356	260,000
予備費	712,611	2,713,000
合計	7,601,853	10,773,000

次年度繰越金 3,751,791円
平成11年5月12日 監事 早福 卓之
上記の通り相違ないことを確認致します。 監事 上杉 雅之

- 島中 勝(新潟)
- 吉川 篤(新潟)
- 長島 一郎(東京)
- 皆川 潔(東京)
- 飯村 康一(新潟) 以上

第六十二回生

四十五周年記念同期会

62回青木留蔵

名簿に漏れている方がおられましたら飯塚、飯村までご連絡下さい。(飯村康一記)

「いやあ、もう四十五年過ぎたのかあ！」

「まだまだ、二分の一世紀に足りないぜ。」

「あの人誰だったっけ」の声もあつたりの、まずは賑やかな一別以来の談笑が幕開けとなった。

第六十二回生四十五周年記念同期会が、爽やかに晴れた十月九日新潟市川岸町のメルパルクで開かれた。

新潟市民芸術文化会館―燕喜



館―母校新校舎(二月に普通教室、特別教室竣工)の見学コースや、翌日の有志によるゴルフコンペなど、幹事団腐心のバラエティーに富んだ会となった。

参加者は女性四人を含む七十人。うち見学コース三十三人、ゴルフコンペ二十六人。

物故者への黙禱から始まり、星野睦夫君の軽妙な司会で、皆川重君指揮する新旧校歌斉唱、幹事代表遠藤亮君のあいさつと型どおり進み、お元気で出席された大橋慎助、小黒英作、田辺啓三、松浪清、望月彰、横山貞雄の六人の恩師先生が紹介され、それぞれごあいさつをいただいた。

「けしからんやつと、成績優秀者は覚えてる」のお言葉には、元悪童連は納得顔か。また「今年の新生生は、男子二百一人、女子二百二人だそうだ」と聞かされたときは、「エッ、ウーン！」と感嘆の声がしきり。(六十二

回生は、女生徒十七人を含む三百四十人が入学しました。ハイ！乾杯の発声は、北海道からかけつけた金塚亮君。今は一気に盛り上がり、叱られた先生、交友の思い出や、消息、淡いロマンス、健康、子や孫の近況などは話ばりきり、あつという間に時は過ぎる。

東京から参加の中村義一君の指揮で、

青山 々々々々
青山 々々々々
青山 々々々々

と、吼えたときは、七十六人の「ますらお」たちの目には、間違いなく四十五年前の瞳の輝きがあつた。

閉会は、これも東京からの曾我健君が「一本じめ」で締めくくり、再会を約して別れた。

会に先立つ見学コースでは、芸文の新施設を紹介され、白山公園に移された旧斎藤邸燕喜館で抹茶の接待を受けたあと、母校新校舎を見学、同窓会校内幹事の山田先生から懇切なる説明をいただいた。新しい時代にふさわしい諸設備に、火災直前の木造校舎しか知らない一行は驚くやら、感心するやら。

翌日のゴルフコンペも、二日続きの快晴に恵まれ、お互いに思いつ切りクラブを振り抜き、旧交を暖めた。

東京青山六三会の総会報告

63回相墨直彦

りませんでしたが私たちと一番年齢差の少ない先生で、東京電力TEPCO銀座館長金川博君のもとに立ち寄られると伺い、今回ご招待しご挨拶をしていただいた次第です。

次に幹事高木研三君の紹介と挨拶がありました。彼はワープロを使って往復はがきによる案内状、五十音順の名簿、出席者の胸に付ける名札、集合写真を送るための封筒に貼る宛て名ラベル等の作成で大活躍いただき、スピーディーに見た目もきれいな文書を皆様にお届けすることができ、彼の存在なくしては今回の会合はなかったものと思われます。

平成十年の同期会名簿から始めた備考欄には退職時の会社、家族、趣味、健康状況、親友などの近況、コメントを記入し、名簿により多くの情報を盛り込むユニークな名簿を目指していますので今後とも御協力ください。

昭和二十九年四月四日深夜に私達の関西方面修学旅行中に発生した、大正十年に建てられて三十二年を経た二代目の木造校舎の火災を報ずる昭和二十九年四月五日付け新潟日報の紙面を高木君が保存していただきました。相墨幹事が平成十一年十月三日に撮影した四代目四階建ての堂々たる新校舎の写真を火災の紙面に添えてコピーして、名簿に付けて皆さんに配布いたしました。当時の紙面を読んでいますと、三年生の時の一年間に及ぶ二部授業や早朝七時から始まる進学補習授業など当時の様子が次々に思い出され、先生と生徒が一体となつての苦勞も今となっては楽しい思い出に変わっています。さらに全員起立し、同期の逝去者二十二名の冥福を祈つて一分間の黙禱を捧げました。

次はご招待の青山六三会新潟本部幹事横田美昭君の新潟弁をたっぷり取り入れたユーモアあふれる挨拶で、この人は教育者なのに標準語がしゃべれないのではと心配になる程に懐かしい新潟弁を披露してくれました。横田君はこの挨拶のなかで、新潟の赤羽君から依頼のあった母校創立百十周年に向けた寄付のこともしっかりと宣伝されたのち、横田君の乾杯の音頭で和やかに楽しい会が始まりました。

あらかじめ配られた名簿順に簡単な自己紹介があり、五十二名中昨年も出席した人が二十三名、今回初参加が二十九名で、

高校卒業以来四十五年ぶりの人も多く、互いに顔を見合わせ、少し時間が経つにつれ少年時代の顔を思い出す風景があちこちに見られました。

三部屋続きの六十八畳大広間には十名一組のテーブル二つ、十六名一組のテーブル二つが置かれ、テッサ(ふく刺し)、フグ鍋、ヒレ酒、フグ雑炊とフグのフルコースでしたが、なんとこちらも横田君がわざわざ新潟から持ち込んでくれた「越の寒梅」二本の冷や酒が好評で、アルコールがまわるにつれて緊張の糸もほぐれ、白髪で髪が薄くなってきた元少年たちは半世紀近くを経た再会で話題が尽きない様子でした。

今回は、大阪の油本暢男、金沢の二階堂修、名古屋の松岡京子、仙台の中村輝一の皆さん遠いところからの参加で会を盛りあげていただき感謝しております。

さらに六三会のマドンナ、五十嵐房子、松岡京子、森実秀子、鎗居光慧の皆さんの出席で花を添えていただきありがとうございます。次回には新潟在住の女性達にも声をかけてくれるよという要望がありました。

ところで63回の女生徒はわずか十九名。六人づつ三クラスに分かれており、あとの四クラス

は男所帯で「団長先生」から「オメッテ、女ガインッケ授業料マケテモラエバ、イイネッカテ」といわれ、まさに珠玉のよな存在でした。



いる年代でした。そこで会も終わりに近づいたとき、誰かれとなく校歌を歌おうということになり、横田君があらかじめ校歌と思い出の応援歌をコピーしてきてくれたので、

横田君の指揮で旧校歌と新校歌のそれぞれ一番のみを蛮声をはりあげて少年時代に帰った気分が歌いました。名残り惜しいが、最後に加野英資君の威勢のよい声での一本締めで締めくくり、楽しく懐かしい三時間半も瞬く間に過ぎ、次に予定している平成十二年十一月二十六日(日曜)の再会を期しました。

期会が刺激になって、横浜で竹山君の呼びかけでの村山弘義君の東京高検検事長就任祝いで十五名程が集つたり、友人同士のゴルフコンペも行われたと聞いております。

我々が一年生のときはちょうど創立六〇周年記念の年と重なり、五葉松をかたどった新校旗の樹立式や、新校歌(百里流れて信濃川、悠々海に入るところ……)が作られ、同時に旧校歌(玲瓏の天あふく時、胸颯爽の意気に充ち……)もよく知って



を感謝いたします。最後に集合写真を撮るため住友ビル入口まで降り、正面入口前の広い階段を利用して参加者一同が相墨、峰松両幹事のカメラにおさまりました。

その後も話は尽す、幹事を中心に八人が住友クラブのラウンジに集い、四十七階からの眼下に瞬く新宿のネオンを眺めながら、水割りやコーヒードで今回の反省や次回の計画などを語り合い、一時間半程で今度は本当に散会いたしました。

出席者 飯利雄一先生、横田美昭(2名招待)、浅野康一、穴澤祐哉、阿部隆二、五十嵐相原(房子)、石渡利男、泉均、市村(石本)義雄、井本博也、大橋道雄、岡崎(三村)雄二、片田宏一、金川博、加野英資、北村寿一、桑山浩然、佐野政夫、清水修、白井利夫、菅原一郎、関守二、相墨直彦、高木研三、高木章介、高橋昌生、竹山行三、地主弘、津久井保、中村輝一、中村道衛、二階堂修、二木信行、庭山昌明、長谷川正、長谷川正勝、長谷川潤治、林嵩、馬場政説、彦坂道進、平野恒夫、本間喜哲、松岡(八町)京子、皆川守、峰松忠浩、村山弘義、森実(田村)秀子、八木肇、鎗居光慧、油本暢男、吉田昌生、若穂田広志 合計52名

82期卒業25周年 記念同期会開催

82年同期会実行委員長 八藤田 茂樹



ただけかと思いません。

当日はまず、全面改築工事が完了した(一部はまだ工事中ではありますが)母校の本館社会科演習室において、柴野章一郎(英正)、小田一彦(化学)の両先生を迎え、午後四時より一時間に渡って「思い出の授業」が開催されました。授業科目は英語弁論による自己紹介(自分でも意味不明な点が多いので、他人に理解してもらえたかどうか?)と、化学実験講習(内容は殆ど手品の種明かしとも言えるが)で、中には予め予習を積んできた人もいたらしく、往年の才女、秀才ぶりを思う存分発揮することができたようでした。また実行委員の栗原道平君が社長を務める水上バスに揺られての大河信濃川散策も、故郷新潟を離れていた同窓生にとっては「悠久の間」におきまして、82期同窓会の二五周年同期会を開催することができました。お盆の何かと忙しい時期ではありますが、多数の同窓生、諸先生を迎えて各種の行事を盛大に執り行うことができ、関係者一同をはじめ多くの方々に喜んでい

激動の一九九〇年代もその歴史に幕を閉じ、二十一世紀のブローグとなる二〇〇〇年を迎え、期待に胸膨らみます今日この頃、皆様におかれましては御健勝のこととお慶び申し上げます。さて近ごろ希にみる猛暑であった九九年夏の八月十二日に、新潟市内の新潟グランドホテル「悠久の間」におきまして、82期同窓会の二五周年同期会を開催することができました。お盆の何かと忙しい時期ではありますが、多数の同窓生、諸先生を迎えて各種の行事を盛大に執り行うことができ、関係者一同をはじめ多くの方々に喜んでい

の八先生を迎え、同期生約百名によるパーティー形式で催されました。会場においては、友人たちの変身ぶりや成長に驚きながら、子供や孫（そろそろ生まれる人もいるらしいが）のことも含め、近況報告や思い出話に花を咲かせることができました。予定されていた時間の過ぎるのもあつという間に、同期会の締めは校歌と「丈夫」の大合唱となり、次回の「三〇周年」の再会を互いに誓い合いながら、まだ猛暑の冷めやらぬ新潟の夜の街へいざ行くと繰り出したのでした。

最後に、同期会の開催にあつ



て多くの御尽力を頂きました。実行委員の方々に御礼を申し上げて結びとさせていただきます。

フエンスィング部

創部50年記念パーティー

58回 加藤高弘

平成十年六月頃、ふと思いついた。今も県フエンスィング協会理事長として、この競技に関わっているが、そう言えば自分が新制高校三年生の時にフエンスィングと云う競技に出逢い、二学期の始めに、ハドミントン、ハンドボール、ボクシングなどの当時未だ珍しい競技と同時に、それぞれ部を創ったのだった。そうすると来年は創部五十年になる。

早速、現役のコーチをボランティアで引き受けてくれている遠藤聡一君（87回）に話を持ち掛けたら「現役の励みにもなるし、何か事業をやりましょう」と云う事になった。それまでOBの集まりは、正月に帰省する若手が一月三日にやっていたが、それもここ五・六年途切れているので復活のキッカケともなる。先づは幹事候補としての目ぼしいOBに集まっ

青山体友会の集い

去る十月二十三日（土）十二時より錦城閣に第十四回青山体友会の集いが開かれた。今回は特別ゲストとして上村光司同窓会長の御出席を戴き大いに盛り上がり最近の母校の近況、新しい校舎の模様等お聞かせ戴いた。クラブの集いはいつでも同級会とちがった味がありタイムマシンにのり、十年前の学校生活にもどれる。関屋だんご、あづき湯、海の砂浜、屋外の平行棒

てもらい相談をする事から始めた。十一月十三日、新潟テルサに12人が集まり、記念講演会、パーティー、出版、応援旗作成等の案を出し合い、平成十一年九月にパーティーを行う事を決めた。その前提として、名簿の整備といきなりの本番パーティーでなく、一月十四日にプレ記念パーティーを行い、様子を見る事も決めた。そしてプレパーティーは四十五人出席の盛況であった。

本番パーティーは九月十一日十六時からイタリア軒で行った。OB三百人に案内を出し、六十人が集まった。来賓として上村同窓会長、青木校長、歴代顧問代表として赤井田南高校々長にそれぞれ祝辞を頂き、盛況であった。今年も現役の活躍もめざま

しいものがあり、OB会組織を強化し、恒常的に現役を支援する態勢を作りたいと思っている。OB諸君に益々のご協力をお願いし、一年間に亘り記念パーティーの準備に当たって頂いた幹事諸君にお礼を申し上げる。



強は出来ない等の言いわけは通らなかつた昔の部の伝統だった。母校のあるかぎり青山体友会は不滅である。当日の出席者は、水野信二郎（48回）外山芳夫（49回）五十嵐喜八郎（50回）上村光司（50回）土田卯八郎（51回）中川弘（58回）川上忠男（59回）白根忠（59回）中野文郎（59回）本間義康（79回）横山明裕（82回）敬称略 である。来年も又おあいしましょう。（中川記）

山岳部OB会に参加して

106回 櫻田 啓



僕は九月十一、十二日に巻機山で行われた山岳部OB会に二年連続で参加しました。以前は来ると言っていたのにいざとなると渋る同期を誘った結果、僕に近い学年のOBは割合多く参加しました。それに比して、もつと上のOBの方の参加が少なくや寂しいものでした。一日目は山小屋（巻機山の家）に集合し、OB会総会が開かれました。飯を食べながら、今後、先輩の活躍する場をいかにするかなど話題豊富な会でした。その後、ささやかなOB会が開かれました。OBや顧問の先生と

は久しぶりに話ができ、普段お話をする機会のない上のOBの方もお話をする事ができるなど、楽しい一時を過ごすことができました。この上下のつながりは山岳部ならではのものだと思います。僕はあいく体調が悪く少し迷惑をかけたので、来年は体調を整えて行きたいと思えます。三年生の引退のミーティングもあり、僕は最後まで出ました。三年生は来年のOB会に来てくれるらしいので期待したいと思えます。二日目 僕は眠い目をこすりながら一つ上の先輩と巻機山に



登りました。しかし、軟弱者の他の若いOBと三年生と藤田先生は登りませんでした。一、二年生も足の悪い人がいたとかで五合目位で下山したためやや寂しかったのですが、僕は七合目まで登りました。僕の登る時は何故か雨が多く、今回も御多分にもれず雨が降ってしまいました。時間の都合もあり下山しましたが、まだまだ若いもんには負けんと思いました。僕の経験上、山岳部員の中で本当の登山好きというのはむしろ少なく、テント内の生活や友達との会話や山の景色が楽しみで登るといふ人が多いと思います。僕自身、現役の時はずらかったこともしばしばで「山嫌い」を言う程だったのですが、こんな僕が進んで山に登っているのは不思議な気がします。やはり、これが山の魅力なのでしょう。どんなに精神的、体力的にづらい思

いとしてもやめなければ三年の引退の時には、「山はいいもんだ。」と思う様になつていくので不思議なものです。今回の登山は、天候がやや悪かったものの気持ちよく登ることができました。高校卒業後はこのOB会の時以外は登っていませんでしたが、またどこか登ってみようという気が起きました。これから僕達も就職してりしてOB会に来るのが年々難しくなると思いますが、何とか

追悼 斎藤隆志さん(65回)

お別れの言葉 92回 紫竹聡子 (テレビ新潟)

あまりにも突然で、ご遺影を前にした今でも、訃報を信じる事が出来ません。

私にとっては、今年五月に父を亡くしたときと同じか、それ以上に言葉に出来ない衝撃を感じました。

斎藤常務が、編成局長として赴任されて以来、制作、そして去年からは編成部で、大変お世話になりました。お世話になった上、大変お叱りを頂きました。というほうが正しいかもしれせん。きっと女性社員の中で一番、名前を呼ばれて、体にピンピン響いてくるような大きなお声でお叱りを頂いたのが私だけです。

か都合をつけて出来る限り九月の第二の土日は巻機山に帰ってきたいと思えます。来年は今年の三年生や僕の二つ下がもつと参加し、もつとにぎやかに予定です。それから、他のOBの方々がもつと来てくださることも期待したいと思います。最後にになりましたが、このような会を開いて下さった藤田先生、坂井先生、OBの方々、現役の部員さん、どうも有り難うございました。

この二年余り、常務からは、実に様々なご教示を頂きました。中でも私の担当しております、視聴率マーケティング・広報の仕事において、次の3つの重要性を、日常の仕事の中でお教え頂いたと感じております。

第1にスピード、第2にアピール、第3は戦略です。どれも当たり前前のことですが、ひとつひとつを常務自らが行動することで示されていりました。視聴率速報の社内掲示から、番組のPRまで、常務が口癖のようにおっしゃるのは、「とにかくすぐ対応しろ。遅いのはダメだ。〇・一ポ

イントでも視聴率が欲しくないのか」でした。また、社員に回覧する業界内紙は、いち早くチェックされて、新潟やTennYの記述があるといつも、真つ先にピンクの蛍光ペンでマークを記されていて、回覧されるとどこを重点的に読めばいいかすぐに伝わってききました。また、視聴率の会議用資料作成についても、視聴率グラフの折れ線の色や、データの示し方まで細かく指示がダイレクトにとんできました。

一見、豪快でざつぱらんな常務ですが、実はとても繊細で、きめ細やかな気配りを大切にされる方であることを私は側にいて存じておりました。これからますます企業広報が重要になる折、常務の部下であったことを、幸せに、また誇りに思います。常務のご期待に完全にお答えできなかつたことが心残りでありません。

新潟地区は毎週木曜日に視聴率データが配信されますが、常務に、今週、このような形でご報告しなければならぬことが非常に悔しいです。さきほど入ってきたデータによりますと、常務、先週の視聴率はTennYが三冠王でした。常務が、ゲキを飛ばしながらずっとモニターされていた「第8回

環日本海新潟駅」は、一七・〇%、占拠率二九・五%でした。この一七・〇%、二九・五%という数字は、歴代二位の記録です。きっと常務は「なぜ一番じゃないんだ!」とおっしゃるかもしれませんが、視聴率結果をご報告してもお返事が聞けないなんてやりきれません。TennYが新潟一番の視聴率をとりつづけることが、常務の

ハイティーン水泳 新中・新高 60回 平田 大六

52 シーズンオフの練習 新潟高校水泳部のシーズンは五月一日から九月三〇日まで続いていた。しかし、九月上旬の県内二つの大会が終れば、九月は「水遊び」なのだ。大黒善弥(50回)監督は、この季節の選手の手を気持ちひきしめる意味合いで、紅白試合などをしかけてきた。それとても、プール借りの新潟中央高校の女子選手も含まれるから、ふざけ合うしまつである。

だが、一九五〇年の九月は遊ぶわけにはいかない。高校二年生の私が、自由型長距離の国体選手になつてからである。大黒監督のハードスケジュールに、同じ長距離の一年

供養になると信じて、また仕事に取り組んで参ります。厳しくも暖かいご指導を頂いたことに、心から感謝申し上げます。お別れの言葉とさせて頂きます。平成十一年十月二日 (注) 斎藤隆志(65回)さんは、元幹事長斎藤希式さん(S40、48年)の長男で、早大から、日本テレビを経て、テレビ新潟に入られました。

生江口良助(61回)たちもつき合いさせられていた。九月に入れば日が短くなる。プールには照明設備がないから、ターンするときにプールの壁に激突しそうになる。おい!自転車踏んで照らせや! 大黒監督の指図で、スタート台と25mのむこう側に自転車があげられた。それを夜間走行にセットして、力いっぱいこぎつづけるのだ。これは下級生の仕事だけれども、同年の青柳(山本)淳夫、治田勇治(60回)も、水からあがると、手伝ってくれた。練習が終れば部屋の中は暗くなつてくる。私たちは、新潟中央高校女子選手との境界の仕切

た。練習が終れば部屋の中は暗くなつてくる。私たちは、新潟中央高校女子選手との境界の仕切

た。練習が終れば部屋の中は暗くなつてくる。私たちは、新潟中央高校女子選手との境界の仕切

りのない梁(はり)の上にローソク一本を灯して、お互に着替えをし合うのであった。

53 名古屋国体へ

第五回国民体育大会の夏季大会は九月二日から愛知県で、水泳は名古屋市振甫プールである。昨年の第四回横浜大会は補欠で泳がなかったけれども、こんどは高校男子四百メートル自由型の正選手だ。

新潟駅で仲間に見送られ夕方長野についた。ここで中央本線の夜行に乗り換えて名古屋へ出るコースである。待時間の一時(いつとき)、私は、新潟中央高校の小日山黎子選手(故人)らに連れられて善光寺へ出かけた。そのゆるい坂道を歩いていると、信州はもうすっかり秋の風情になっていた。

シーズンは過ぎていく。なんとなく戦意が湧いてはこない。

大黒監督は夜行列車に備えて、選手にビート板(註)を一枚ずつ携行させていた。これを座席のシートに渡して敷いて平(たいら)にし、お互に足をのばさせて楽に眠れるように考案されたのだった。

それでもなかなか眠れない。「夜汽車」は、蛇行をくりかえしながら、木曾川にそってくだ

りつづけていた。(つづく)
(註)水泳の足だけの練習で、上体を浮かせるために手で支え持つ板。人の背中くらいの大きさ。

38回同期会より

絵画の寄贈



新校舎の完成をお祝いして、三十八回同期会から青山同窓会に絵画が寄贈されました。同期の関屋俊彦画伯の作品で、百号の大作です。
後日学校側とも相談のうえ、校内のしかるべき所に飾らせていただきます。同窓の皆様も母校をお訪ねの折りにぜひご覧ください。

三十八回生は昭和六年三月に卒業されました。関屋画伯をお訪ねして同期会の事などをいろいろ伺いました。幹事役のお世話で、活発に同期会を開催していましたが、だんだん年をとり、最近では会を企画しても、当日になり体調不調で、欠席になる人もあったりと、集まる人も少なくなり寂しくなりました。とおっしゃっておられました。

これからも奥様ともどもお元気で過ごされますようにと願っております。三十八回の皆様がすばらしい絵を後輩の為にプレゼントいただきましたことを心から御礼申し上げます。ありがとうございます。皆様のご健康とお幸せを祈念致します。
(幹事長 石田瑞穂)

母校は今

昨年二月の引越し以来丸々一年が経とうとしている。その間に多くの同窓各位に新校舎を訪問して頂いた。

まず、引越し直後の二月十五日、東京青山同窓会の栗林貞一会長から直接連絡があり、斎藤英四郎名誉会長、斎藤伸雄前会長と佐藤良策副会長の四名で来校された。長谷川新潟市長も駆け付けてこられて、一緒に校

内を回られた。斎藤英四郎氏が、正面玄関を入りながら、「やあ、これが俺の母校か...立派なものだ」と例の大音声で言われたのが印象に残った。

ところが、氏が玄関で靴を脱がれるときに苦勞された。掴まるところがないのだ。坂井教頭が支えてあげたと記憶する。

同期会の学校訪問が夏から秋にかけて何回もあったが、この会報にもそのことに関する記述が散見されるし、ここでは触れないことにする。皆さんの、年令に關係ない全般的な感想をまとめると、新校舎の立派さを感じ、ではなくて自分たちのときのボロ校舎との隔絶的な違い、見事なまでに過去の痕跡が消えていることへの驚き、であるように思われる。

三十九回卒の方々が来られたときの印象を書いてまとめたい。

十月の、青山祭(文化祭)の直前に九名で来られた。玄関で斎藤英四郎氏と同じことが起きない。何人かの方が靴をうまく脱ぎ、指導の渡辺和恵先生(今年度初めて講師)を見落としてしまった。生徒のなかに紛れて見分けがつかなかった。改めて挨拶をして、お互いを紹介したが、私にとって少々ショックが残った。渡辺先生は本校百二回の卒業であり、訪問している方々は三十九回。その年令差実に六十三歳。蛇足ながら私は六十九回

揃っていることがない。どこを見るより先にトイレに行かれる方がいる。先回りされる方がいる。どこかの部屋に入りきりの方がいる。エレベーターに乗り遅れる。乗る、乗らない。見事にバラバラなのだ。しかしてんでん勝手ではあるが結果的には逆に見事に統率が取れていた。見るべきところはしっかりと見て予定時刻きっかりに出発点に全員がもどっていた。自分の体調を考えてマイペースを保つ。かつ自由闊達に楽しむ。こうあるべきであると感心した。他のもつと若い期の方々も、もつと多人数で、もつと規律正しかったけれども、本質的には同じだと思われた。説明役の勉強不足、努力不足は棚にあげて、これが自主自律のよき伝統であろう。

文化祭の準備で学校中大騒ぎであったが、五階の芸術(美術・音楽・書道)の教室が特に大変だった。書道教室をのぞいたとき、指導の渡辺和恵先生(今年度初めて講師)を見落としてしまった。生徒のなかに紛れて見分けがつかなかった。改めて挨拶をして、お互いを紹介したが、私にとって少々ショックが残った。渡辺先生は本校百二回の卒業であり、訪問している方々は三十九回。その年令差実に六十三歳。蛇足ながら私は六十九回

揃っていることがない。どこを見るより先にトイレに行かれる方がいる。先回りされる方がいる。どこかの部屋に入りきりの方がいる。エレベーターに乗り遅れる。乗る、乗らない。見事にバラバラなのだ。しかしてんでん勝手ではあるが結果的には逆に見事に統率が取れていた。見るべきところはしっかりと見て予定時刻きっかりに出発点に全員がもどっていた。自分の体調を考えてマイペースを保つ。かつ自由闊達に楽しむ。こうあるべきであると感心した。他のもつと若い期の方々も、もつと多人数で、もつと規律正しかったけれども、本質的には同じだと思われた。説明役の勉強不足、努力不足は棚にあげて、これが自主自律のよき伝統であろう。

で上と三十歳、下と三十三歳の差。これからも皆さん随時、学校訪問に来ていただきたい。

編集後記

☆西暦二〇〇〇年おめでとうございませう。新しい年明け、皆様感慨やいかに。良き年であります。

☆学年代表幹事として尽力された大橋明自さん追悼の同期会を始め各期の開催報告が盛りたくさんです。それぞれ幹事役ご苦労さんです。

☆クラブのOB会関係もいろいろ行われています。紙面初登場のフェンシング部など、新しい動きもありました。

☆風間さんの褒賞受賞、おめでとうございませう。秋の叙勲では、厚地副会長さん始め多くの方が受賞されました。各方面での同窓の活躍を誇らしく思います

☆東京で、関西で、若い同窓のお手伝いの元で活発な会合が開かれています。新しい世紀の始まりで、同窓各位が多方面で、活躍されている事を、会報の紙面を通じてお知らせして行きたいと思ひます。また、大先輩からのいろいろな思い出話などもお聞きしたいものです。(石)

智夫子俊男郎作夫通昭治功男雄子一彦彦治彦夫治一重夫満郎登一三亭平郎也夫元収史子宏雄仁德章子郎治彦昌允子揚吾助男実市男郎平脩透

おわび
多くの方々から、会費納入をいただき感謝いたして
おります。紙面の都合で68回以降の納入者名簿は次
号に掲載させていただきます。

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

昭郎子夫郎実一 一徳義平博行裕夫夫深英貢也青正男彦男子敏敏和郎子一治郎彦積直 男也男葵郎雄寛之允則史一郎次一弘子夫三信郎之男俊志子子美孝孝彦彦也春弥可雄子治弘子一夫吉枝枝郎彦彦樹行誠梁平一子夫隆明利紀満和子央彦二子康信松光操

平成十一年度青山同窓会会費納入者名簿1

(4月より12月上旬まで納入済みのもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。1口1,000円できるだけ2口以上でお願い致します。

(郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会)

Table listing members and their contributions for the 11th year. Columns include member names (e.g., 久茂三実武純生, 松喜八), amounts (e.g., 18000, 5000), and other details. The list is organized into several columns and includes various member names and their respective contribution amounts.